

②国際協力・交流等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（セ01）	文化遺産国際協力センター	47
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（セ02）	文化遺産国際協力センター	49
西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ03）	文化遺産国際協力センター	51
在外日本古美術品保存修復協力事業（セ04）	文化遺産国際協力センター	53
ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（セ06）	文化遺産国際協力センター	54

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-13-3/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議等出席

文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。また、集約した情報や今後の課題については、研究発表のかたちでも一部発表した。

世界遺産委員会（プノンペン、2013（平成25）年6月16日～27日）、ICCROMの理事会・総会（ローマ、2013（平成25）年11月24日～30日）、無形文化遺産政府間委員会（バクー、2013（平成25）年12月2日～7日）

世界遺産委員会では、事前調査や会議の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。また、世界遺産委員会で得られた情報を効果的に国内の関係者と共有するためのニーズ調査を実施した。無形文化遺産政府間委員会においては、補助機関に選ばれた日本政府団の一員として、無形文化遺産代表リストへの記載の審査を行うとともに、審議の要約を作成した。

2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究

アメリカ国内には2万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。また、欧米の美術館・博物館の果たしている歴史的・社会的役割は、日本における文化財保護を考える上で、大いに参考になる。以下の美術館・博物館において、所蔵日本美術作品及び作品管理状況についての調査を下記の日程で行った。調査成果については論文および口頭で一部発表した。

デトロイト美術館（2013（平成25）年6月26日～7月2日）、エジンバラ国立博物館（2013（平成25）年11月14日～19日）、ボストン美術館、ハーバード大学美術館、イザベラ・ガードナー美術館（2014（平成26）年2月10日～14日）

3. 対訳法令集シリーズの刊行

本年度はインドネシアについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。

論文

- ・EMURA Tomoko, Rimpa Artists and Samurai class, Bulletin of the Detroit Institute of Arts. vol.88, 14.3

発表

- ・二神葉子「世界遺産－現状と問題、将来像」第47回オープンレクチャー 東京文化財研究所 13.10.5
- ・境野飛鳥「アメリカの動産文化財保護制度」第4回総合研究会 東京文化財研究所 14.2.4
- ・江村知子「文化財の国際情報の活用－日本美術作品を中心に」第4回総合研究会 東京文化財研究所 14.2.4
- ・二神葉子「ユネスコ無形文化遺産保護条約第8回政府間委員会」第14回文化遺産国際協力コンソーシ

②国際協力・交流等 Area11

アム研究会・文化遺産保護の国際動向 14.3.7

刊行物

- ・『各国の文化財保護法令シリーズ [18] インドネシア』 東京文化財研究所 14.3
- ・『国際資料室蔵書目録』 東京文化財研究所 14.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、新免歳靖、渡部妥子、高多加奈子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-13-3/5)

目 的

東南アジア諸国等においては、文化遺産の保存修復に関する国際協力や域内連携の動きが近年活発化しているが、多くの文化遺産を抱え、国ごとの保護体制に関するレベルの差も大きい。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて、文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア

- 1-1. 建築測量・図化研修：前年度に続き、タネイ遺跡にて建築遺構実測研修を実施した。GPSとトータルステーションを用いた遺構実測と、CADによる図化作業までの基本的手順を技術移転することを目的とし、アプサラ機構、プレアヴィヒア機構、JASAのカンボジア人スタッフが参加した。第3回研修は2013（平成25）年7月22日～8月2日の2週間で実施し、上記各機関より計9名が参加し、地形測量の方法を中心に実習した。第4回研修は、2014年（平成26）年1月17日～24日のうち7日間で実施し、新規参加者を含む計9名が参加した。主に写真測量の技術を実習したほか、伽藍中枢部の平面実測・図化作業を基本的に完了した。
- 1-2. ICC出席：2013（平成25）年12月3日～4日午前シエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）第22回技術会議に参加し、活動報告を行った。4日午後同第20回本会議、5日には第3回アンコールに関する政府間会議にも参加し、保存と国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
- 1-3. 石造遺跡の微生物劣化に関する研究報告：本共同研究事業の総括として、2013（平成25）年1月にアプサラ機構と現地で共催した研究会の記録を含む報告書を英語で刊行した。

2. タイ

タイ文化省芸術局の要請にもとづく、バンコク市内ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた協力として、2013（平成25）年5月7日～10日にかけてバンコクにて、同局や寺院関係者ほかとの協議、扉の現状調査と日本移送準備作業、類例調査、螺鈿を含む伝統工芸技術の工房調査等を実施した。

3. ミャンマー

- 3-1. 考古局職員招聘：文化省考古・国立博物館局の職員3名を日本に招聘し、同国での文化遺産保護の現状について情報収集するとともに、我が国の文化遺産保護関係の現場見学等も行いつつ意見交換した。
- 3-2. 研究会開催：2014（平成26）年2月18日に本研究所会議室にて研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」を開催した。上記ミャンマー国文化省考古局職員3名による報告のほか、東文研・奈文研の担当者3名が各分野における受託協力事業の内容を中心に報告を行い、関係機関担当者や関連分野の研究者も含めた情報共有を図った。研究会には所内関係者も含めて計43名が参加した。

4. その他

ベトナム、ブータン等において実施している外部資金事業と連携し、その効果を促進するため、関連の資料翻訳や研究会への参加等を行った。

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成25年度成果報告書』 東京文化財研究所 14.3
- ・『Study on the Biodeterioration of Stone Monuments in Angkor – Results of the Joint Research Project at Ta Nei Temple –』（英語）東京文化財研究所／APSARA機構 14.3

②国際協力・交流等 Area11

研究組織

- 友田正彦、川野邊渉、佐藤桂、楠京子、山下好彦、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-13-3/5)

2. イラク

イラク人文化財専門家を育成し、イラク人による文化財復興を支援する。イラク国立博物館より保存修復家1名をアルメニアに招へいし、1月15日～21日にかけてアルメニア共和国歴史博物館にて開催した「考古青銅遺物の保存修復に関する国際ワークショップ」と連携して、保存修復に関する人材育成を実施した。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

3-1. インド

アジャンター壁画の保存修復に関する報告書を刊行した。

②国際協力・交流等 Area11

3.2. 中央アジア

- ・タジキスタン：タジキスタン出土の壁画資料の保存をはじめ、文化遺産保護活動への支援を実施した。
- ・キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力；文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、8月、9月に発掘、保存修復、史跡整備に関するワークショップ、2月に出土遺物の保存修復に関するワークショップを実施した。
- ・タジキスタン、ウズベキスタンにおける文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップへの協力；ユネスコ／日本文化遺産保存信託基金事業と連携し、11月にタジキスタン、12月にウズベキスタンにおいてワークショップを実施した。

3.3. エジプト

JICA受託「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」にかかる支援業務を実施した。

3.4. コーカサス

アルメニア共和国歴史博物館との考古青銅遺物の保存修復に関する協力を実施した。文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、ワークショップを6月、1月に開催した。また、本事業に関する報告書を刊行した。

4. 国際会議等の主催・参加

- ・国際シンポジウム「シリア復興と文化遺産」を主催した（10月31日、於東京文化財研究所）。
- ・国際会議「Sub-regional closing meeting of UNESCO/Japan Funds-in-Trust project: Support for documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage Serial Transnational Nomination in Central Asia」（12月4日～5日、於タシケント、ウズベキスタン共和国）への参加。

刊行物

- ・『インドー日本文化遺産保護共同事業報告第4巻 アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011）—』東京文化財研究所 14.3
- ・『インドー日本文化遺産保護共同事業報告第4巻（資料編）アジャンター第2窟壁画の彩色材料分析』東京文化財研究所 14.3
- ・日本ーアルメニア文化遺産保護協力事業報告第1巻『アルメニア歴史博物館所蔵 考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012年度（第1次～第4次ミッション）』東京文化財研究所 13.5

研究組織

○川野邊渉、山内和也、安倍雅史、川口雄嗣、田島さか恵、久米正吾、藤澤明、山田大樹、近藤洋、本郷浩志（以上、文化遺産国際協力センター）、松田泰典、杉原朱美、間舎裕生、釘屋奈都子、谷口陽子、山藤正敏、有村誠、邊牟木尚美、鈴木環（以上、客員研究員）、森本晋、石村智、田代亜紀子（以上、奈良文化財研究所）

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-13-3/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び修復して返還することを目的としている。また、ワークショップを開催し保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復

- ・キンベル美術館（アメリカ）所蔵 二十五菩薩来迎図 絹本着色 掛軸装2幅 修復終了。
- ・シンシナティ美術館（アメリカ）所蔵 源氏物語図屏風 紙本着色 屏風装6曲1隻 修復終了。
- ・プロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵 五十嵐道甫作 秋野蒔絵硯箱1合 修復中。

2. 調査

グルジア：国立美術館（トビリシ）。スペイン：スペイン国立装飾美術館（マドリッド）、サラゴサ博物館（サラゴサ）。フランス：ギメ美術館（パリ）。スペイン：スペイン国立図書館、国立近代美術館、国立工芸美術館、国立文化遺産機構（マドリッド）。ドイツ：ドレスデン陶磁器博物館（ドレスデン）。オーストリア：ウィーン工芸大学（ウィーン）。

3. ワークショップ

- ・Workshops on Conservation of Japanese Art Objects on Paper and Silk、場所 ベルリン国立博物館 連合・アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop 1) “Basic -Japanese paper and silk cultural properties-”、2013（平成25）年7月3日～5日、参加者19名。(Workshop 2) “Advanced -Restoration of Japanese folding screen”、2013（平成25）年7月8日～12日、参加者10名。
- ・Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Lacquer ware)、場所 ケルン市博物館 連合・ケルン東洋美術館（ケルン・ドイツ）：(Workshop I-a) 2013（平成25）年11月14日～15日、参加者5名。(Workshop I-b) 2013（平成25）年11月16日、参加者6名。(Workshop III) 2013（平成25）年11月19日～22日、参加者6名。(Workshop IV) 2013（平成25）年11月26日～29日、参加者6名。

発表

- ・山下好彦、川野邊渉「Pressurizing and supporting techniques for damaged laquer objects」Asian Laquer Symposium 2013（バッファロー州立大学、アメリカ合衆国ニューヨーク州） 13.4.20-26
- ・楠京子、山田祐子、君嶋隆幸、加藤雅人「紙本作品における酵素の除去確認方法について」文化財保存修復学会第34回大会（東北大学百周年記念館川内萩ホール） 13.7.20
- ・加藤雅人「在外日本文化財の保存と修復」What should we do with overseas Korean cultural property（韓国国立博物館） 13.12.14

刊行物

- ・『コーカサスに渡った日本美術作品ーアルメニア国立美術館所蔵「名区小景」調査報告書』 東京文化財研究所 14.3

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、境野飛鳥、川端冴子、山之上理加（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、田中淳、綿田稔、塩谷純、皿井舞、城野誠治（以上、企画情報部）、今城裕香、深井啓、樋田真理（以上、研究支援推進部）

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-13-1/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他の分野の専門家と学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域（含む北アフリカ）を対象とし、その中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画

- 1-1. 現地調査：2013（平成25）年8月31日～9月8日。莫高窟第285窟4壁と天井部について携帯型蛍光X線分析計、顕微鏡、分光光度計を用いた分析調査及び環境調査を実施した。
- 1-2. 敦煌研究院研究員の来日研修：2013（平成25）年9月22日～10月12日の日程で保護研究所程博研究員を招聘し、技術研修を実施した。
- 1-3. 報告書の作成：東京文化財研究所と敦煌研究院共同の2013年度成果報告書を編集し、発行した。
- 1-4. シンポジウムと専門家会議開催：2014（平成26）年2月19日、第285窟に関する研究調査に関してシンポジウムを開き、翌20日は壁画研究に携わる他機関の研究者と情報交換と専門的討論を行った。このシンポジウムのために2月18日～22日の日程で、敦煌研究院研究員1名を招聘した。

2. 陝西墳墓壁画

- 2-1. 現地調査：2013（平成25）年8月27日～31日。陝西省延安市周辺で発掘途中の壁画墓（金時代）2基を視察し、発掘現場における光学調査に関する方法を検討した。
- 2-2. 現地調査：2013（平成25）年10月19日～26日。曲江芸術博物館が開催した壁画芸術及び保護修復技術に関する国際学会会議に参加し、壁画発掘現場における記録保存に関する研究の成果を発表した。
- 2-3. 現地調査：2014（平成26）年2月23日～25日。陝西省考古研究院で壁画墓発掘とその保存修復の状況について視察するとともに、今後の共同研究について討議を行った。

3. タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画断片の保存修復

- 3-1. 国内作業：壁画の保存修復に関する新たな処置方法の検討を行った。得られた成果を実際に適用するとともに学会や論文にて発表した。
- 3-2. 現地調査：2013（平成25）年9月18日～10月15日。15次ミッションを派遣し、タジキスタン国立古代博物館においてフルブック遺跡出土の壁画断片の調査及び保存修復作業を実施した。

4. エルミタージュ美術館との協力体制構築のための調査

- 4-1. 現地調査：2014（平成26）年2月3日～8日。エルミタージュ美術館の調査を行い、これまでの事業で協力関係にある専門家と意見交換および今後の協力体制の構築にむけた打ち合わせを行った。

刊行物

- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究 2013』東京文化財研究所・敦煌研究院 14.3

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、藤澤明（文化遺産国際協力センター）、津村宏臣、高林弘実、渡邊真樹子、杉原朱美（以上、客員研究員）